

トゲチヨ

会津ネット通信



発行「トゲチヨ会津ネットワーク」事務局
国土交通省阿賀川河川事務所工務課
NPO法人会津阿賀川流域ネットワーク
〒965-0830 会津若松市西年貢1丁目7番45号
(社)北陸建設弘済会会津若松支所内

3号

◆2007. 1. 23(火) 発行◆

フォーラム特集号

お知らせ

トゲチヨを学ぶ会inばんげ

2月20日(火)開催決定

本号6ページ

二瓶会長・イトヨの挨拶・・・1
イトヨフォーラム特集・・・2～5
(講座・研究発表・パネルディスカッション・報道記事等)
1/17世話人会の報告
トゲチヨを学ぶ会inばんげ開催のお知らせ・・・6
流域学講座第4回～宝くじ～

トゲチヨ会津ネットワーク会長新年の挨拶

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にはご健勝にて希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年本会では阿賀川流域の自然環境の現状を認識していただく一助として、「会津トゲチヨフォーラム」を開催いたしました。

フォーラムでは環境問題にご関心をお持ちの数多くの方々にご参加いただき、阿賀川流域における自然のあるべき姿を描き出すことができたように思われます。これもひとえに会員の皆様、スタッフの皆様の協力のご賜物と、心より感謝しております。

新たな年を迎えるにあたり、会津地域における豊かな自然の保全、再生を目指して、今後も様々な活動が続けていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

トゲチヨネットワーク会長 二瓶 庄栄



イトヨから新年の挨拶

新年明けましておめでとうございます。

昨年はとてもお世話になりました。突然に注目を浴び、走りというより跳んでいるような、そう有馬記念のディープインパクトのような走りをした一年でした。

12月の半ばに催されたフォーラムには熱い多くの私のファンが集まれ、多くの魚たちに羨ましがられました。正直、嬉しいのですが少しの不安もありました。

昨年のブームになった日本ハムのヒルマン監督の「シンジラレナイ」が阿賀川で起きました。大晦日近くの27日に前日よりの降雨により出水となったのです。

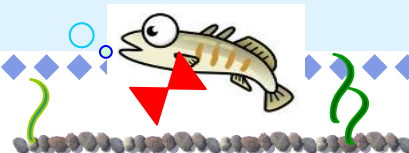
冬の洪水です。冷たい濁流が私達を襲いました。

私達は皆さんのあの熱い思いを胸に、冷たい水にも耐えました。

しかし水が引いたあとに、私達の姿を見に来てくれる人はいませんでした。

少しの不安が少し当たりました。

2007年は猪の年とか、牙を持つ猪。トゲを持つ私。なんだか似ているようで嬉しい年になりそうです。どうぞ本年も皆様にとって良い年でありますことをお祈り申し上げます。



イトヨフォーラム特集

(発言概要)

フォーラムは昨年12月17日に喜多方プラザで200余名の参加者によって開催されました。
新潟大学名誉教授の本間先生の講演をはじめとして諸々の発言・発表がありました。
流域の水環境を考える上で、とても重要なフォーラムになりました。

講演等に先立ち、開催地である喜多方市白井英男市長より挨拶をいただきました。
「清流をもつ喜多方はトゲチョ、セキレイ、ホタルを市の代表する生き物としています。そのいずれもが清流に棲むものです。ラーメンの街喜多方も清い水があつてのものです。より水を大事にする、よりきれいな水をもつ、このことが流域のMerkmal(指標)なるという意志をもち、その裏付けとしてトゲチョがいるということになろうと考えます。素晴らしい水環境をみんなで守りましょう」



基調講座

イトヨの生態と水環境

新潟大学名誉教授 本間 義治

[陸封型イトヨの特徴や会津地方でイトヨを保全することの意義]



新潟に住む私は、早春に信濃川を遡上するイトヨを見て育ちました。
海から遡上し、川に卵を産むサケやイトヨを不思議な魚と感じました。

このようなことも動機となり研究者への道を進むことになりました。

イトヨは陸封型と降海型というふうに表示されます。つまりイトヨは言葉では一種だけれども海と川で生きるものと、川のみで生きるものとがいます。

そこで型という表現をつかいます。型は種とはならないのでしょうか。

i) 会津のイトヨと海より遡上したイトヨを交配しました。

結果：経代的（永代を継ぐこと）にはならない。

ii) 会津のイトヨと海のイトヨはいつ頃より違うのか（遺伝的距離）

結果：遺伝的距離は数百万年の単位になる。

iii) 形態的な変化はあるのか。

結果：外形及び体色にその差異が認められる。

以上のようなことからイトヨの陸封型と降海型は別種である。

よって会津に永く生き続けるイトヨはとても重要なものです。

このイトヨを支えるものが水環境である
ので今後も注視しなければなりません。



事例紹介 本願清水イトヨの里

副館長 長谷川 幸治

「北陸の小京都、福井県大野市でのイトヨ保全活動レポート」

陸封型イトヨ南限生息地ということで、国指定天然記念物に在る大野市はあちこちに清水（しょうず：しみずのこと）があり、かつてはその清水にイトヨが泳いでおりました。しかし近年イトヨは減少しました。そこで行政と住民はこの稀少なイトヨを守るためにイトヨの里・会館を平成13年に完成させ、水環境・イトヨの生態観察、調査にと、学べ楽しめる施設を作りました。またこの施設を目当てに観光客が市に入るようにもなりました。生きものを扱う施設なので苦勞もあります。イトヨを狙い飛来するサギ、紛れ込むザリガニ、増え続けるアブラハヤなどの苦勞です。

この会館では地域の人々にとっては、イトヨ音頭、イトヨ踊りの場であつたりと親しまれる存在でもあります。このような活動に平成16年には秋篠宮殿下ご臨席での「トゲウオ・サミット in大野」も開催することができました。

大野には清水に泳ぐ宝物、イトヨがいます。阿賀川流域にも会津の宝物のイトヨがいます。この宝物のイトヨが永く泳ぐ水環境とともに支え合ひましょう。



研究発表 私たちの川にイトヨが帰ってきたよ

喜多方市立第二小学校4年3組

～ぼくらの水辺再発見マップ～

いつか姿が見えなくなったイトヨが街中を流れる田付川に帰ってきた嬉しさとイトヨの棲む元気な街、喜多方をクラス全員で描きました。

絵は川の日制定記念の応募作品で県、最優秀賞に輝きました。

制作は大変で放課後も残つての作業だったけど、だんだんと楽しくなっていました。描いているうちに、イトヨの生態や川の生きものについても学びました。また川でゴミを拾ったり、草を刈ったりもしました。それらの行動の中で川の大切さを知りました。クラスメイトの一人は歌も作りました。一部ですが

♪時が過ぎてきれいになった川にようやく帰ってきたトゲチョ、

ずっとずっと未来までいてね。私たちのトゲチョ♪

今でもクラスに飾られる絵を見るととても元気と勇気がでる。

●ぼくらの水辺再発見マップ●



続いて

イトヨに直接に関わる団体等の代表者による パネルディスカッションが行われました

テーマ：「イトヨ保全の取り組み」

発言者は、喜多方市高郷町自然を守る会：二瓶豊久氏、南会津町川島地区：室井藤夫氏、会津非出資漁業協同組合：鈴木一弘氏の三氏に事例紹介者の長谷川幸治氏です。

二瓶豊久

喜多方市高郷町自然を守る会

高郷町に流れる只見川にイトヨが生息をしている。かつての地元では湧き水箇所には希少種のホトケドジョウやイトヨはいた。今は土地改良事業でその住環境もそこに生きていた生きものがいなくなった。この只見川に泳ぐ少数のイトヨを守りたい。しかしダムの水位の増減等のこともあり難儀する。多くの人と知恵を出し合いながら豊かな郷土の自然を守りたい。活動は急がず楽しみながら、そして誇りをもって進んでいきたい。



室井藤夫

南会津町川島地区



旧田島町川島地区に存在する阿賀川の旧河道に生息するイトヨを、地区で保全している。激減するイトヨを見て、この環境を次の世代にこのまま継いでよいのかとの自問もあり、地区の人々と呼応しかつての環境に近づけようと行動をしている。また、いも煮会もお楽しみでイトヨ生息地で行っている。総合学習などの環境学習でも訪れる人も多くなっており嬉しく思っている。

鈴木一弘

会津非出資漁業協同組合

今、全国的に、種々の生物に行政も住民も注目をしている。そのことは大切なことだが、その目は稀少なものを見ている。稀少なものだけを特別扱いにするのではなく、普通のものも生態的考察からしても重要である。多くの生きものが生きられる環境づくりが重要である。生きものを護るには、それらの生きものの生活史とその環境をよく調べ理解することが重要である。



大野市ではいたるところでイトヨというものに出会う。
マンホールのフタ、バスの絵柄、オブジェ、保育園の名前に
までいたるところでイトヨに出会う。街中にイトヨがいる。
つまりイトヨの存在が常に生活の一部にないと保全是難しい。
組織の高齢化も問題である。大人を育てることは難しい。
子どもは今の結果ではなく将来の結果を考えれば重要な理解者
であり指導者である。このことも考えなくてはならない。しか
しいくら人が集まり、意志が集まっても核となるものを持たな
ければならない。



イトヨフォーラム新聞記事

報道の一部をご紹介します。

イトヨと水環境守れ

喜多方でトゲチヨフォーラム

生息調査発表や講演

061219

イトヨの生態守れ

喜多 講演や児童研究発表

061218

福島民友

フォーラム終了後 参加者達の声

☆イトヨで町おこしができるなんて考えてもみなかった。(40代 男性)

☆イトヨもがんばっているんだなー。(20代 男性)

☆ちよームズカシイ。(小学生 男子)

☆もっと暖かい時にやって頂けたらいいと思います。(40代 女性)

☆実際の生息地を見ながらお話が聞けたらもっといいですね。(20代 女性)

☆どう保護するのかの方法(技術)が聞きたかった。(50代 男性)

会員の皆さんへお知らせです。

本年第1回目の役員会が1月17日(水)に開かれました。

そこでは

- 1)フォーラムの総括
- 2)日常活動について
- 3)次年度の活動の在り方について
- 4)河川整備基本助成についてなどの話し合いが行われました。



特に日常活動では、2月20日に会津坂下町でトゲチョを学ぶ会(勉強会)を開催すること、また次年度をにらんだ活動の在り方では、流域住民の参加と意識の高揚、イトヨ保全の技術、学習力のスキルアップ、総合学習等を通じての子どもたちへのアプローチ、陸封型イトヨ生息地の視察などが提案され話し合われました。整備基金の申請は上記の活動を対象として事務局で精査し応募するとなりました。

トゲチョ

を学ぶ会 in ばんげが開催されます。

日 時：平成19年2月20日(火) 13:30~15:30

場 所：会津坂下町町民体育館

講 演：テーマは「会津のイトヨについて」調査からわかったことなど

「会津の魚いろいろ」

講師は理学博士、加藤秀男氏

平成18年度会津地方の魚類調査担当者、他に会津坂下町立坂下小学校生徒さんによる、「身近な川の生きもの発見」という研究発表があります。

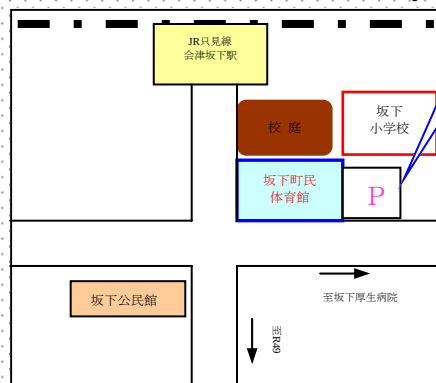
多くの会員の参加を期待します。

寒い時期です。

十分に天候等に注意してお集まり下さい。



○会場案内図○



駐車場は会場の裏手になります。

あかかわ

流域学講座

第4回

年末ジャンボは当たらなかった。3億円は駄目だった。会津において、3億円おいで、私において、3億円おいでと唄ったが駄目だった。そもそも300円で3億円を掴む。つまり100万分の1の投資でその実を掴もうとしているのだ。冷静になれば、100万分の1とは、99.9999%当たらないということである。10枚買ったからとかボーナス全部買ったからとて、99.99%ぐらいのものだろう、駄目なのである。

日本の地図を拡げる。陸封のイトヨの生息地に赤い印を付ける。国土面積と比べるとその生息地は宝くじ並みである。

身近な一等賞がすぐそこにあるのに、難しい一等賞を夢みている。よく見なくともブスなのに、隣の奥さんに熱上げて誰かさんみたい。(坂下 諭)

宝くじ